

発刊によせて

夢を生きる



ギタリスト、作曲/編曲家としての活動とともにアート・オブ・スピリッツの代表を務める、神奈川県在住。

小野 晃
(17回卒)

この度は、創立三十周年おめでとうございます。本校を卒業してから、あつという間に、十三年の月日が流れました。現在、私は、昨年設立した、プロダクション・音楽レーベル、アート・オブ・スピリッツにおいて、コンサート活動、CD制作等の音楽活動を行っています。

高校一年の夏にギターを始め、プロのギタリストになるという夢を抱き、卒業後、音楽の専門学校に入学しましたが、沢山の人のサポートを得て、早々と、この夢は実現しました。二十代の多くの時間は、会社に所属して、音楽の仕事に携わってきましたが、それまでの経験を生かし、更なる発展を目指して、一昨年、独立し、アート・オブ・スピリッツを設立しました。

アート・オブ・スピリッツは、その名前が示す通り、「魂の創造、自分自身が、本当に望んでいる現実を創造する」というビジョンを持っています。

私は、全ての人に、才能と可能性があると信じています。それを開花させるには、自分自身に正直になって、一番やりたいことを行動に起こす事



が、最も大切だと感じています。絶対的な集中力と持続力は、苦痛や緊張の中で、自ら奮い立たせ、何かに取り組む時に生まれるのではなく、夢中になって、喜びの中でリラックスして、楽しんで取り組む時に生まれると感じます。そのプロセスの中で創られたものからは、高い密度と集中力、輝かしい光を感じます。それは、その人自身が、真に花開く瞬間の輝きだと思えますが、その光に、私は強く惹きつけられます。そんな光に溢れた作品、「アート・オブ・スピリッツ」を、多くの人と分かち合うことを目的としています。

再び、私一人のスタートとなった昨年は、先ずは、自分が光を放たなければ始まらないということで、自身のソロ・アルバムCDの発売と、ソロ・コンサートからスタートしました。予想以上に、CD、コンサートとも、沢山のの方に聞いていただき、メディアやFM等でも取り上げていただき、やはり光は、それを求める人の所へ飛んでいくと感じました。本年度は、私の意志に共感し、ともに活動していこうというアーティストたち、その活動をサポートしたいと望むスタッフたちと、ともに活動しています。現在、それぞれのアーティストが、CDの制作に取り組みんでいます。これまでCDの販売を、一部店舗とライブ会場、ホームページ等で行ってきましたが、次回作品から、全国のCDショップでの販売を開始する予定です。

今後の活動ですが、国内だけでなく、海外での活動も実現することを目標にしています。

二十代の頃は、「自分の好きなことだけを、生きていくなんて不可能」と決め付けていて、生活のために、時には愚痴を言い、無力感を覚えながら、望まない仕事も沢山してきました。その代償として、生活は安定し、経済的



にも少しは裕福な生活を送っていましたが、ずっとこんな生活をしていくのだろうか？と自分の将来を考えるたびに、絶望的な気分になりました。しかし、独立して、また一人で新たに、一番やりたいことを始めようと思った時、これで成功する保障も、生活できる保障も、全くありませんでしたが、とてもワクワクしました！以前も感じたことのある、このワクワクする感じは、高校を卒業して、音楽学校へ入学するため、上京した時に感じたものでした。私は、再び夢を持つことで、自分が新しく甦ったような気分でした。

そして、今、感じることは、毎瞬、自分の命を完全燃焼させることが出来れば、自分で思っているよりも、遥かに素晴らしい結果が生まれるということです。それだけでも、とてもエキサイティングなことですが、それを続けることが出来れば、夢のまた夢、さらに、遥か遠くまで行けるような感じがしています。しかも、そのプロセスは、毎瞬、生きる喜びに溢れたものです。自分自身に、チャレンジすることを許し、一〇〇％行動出来れば、夢を生けることは可能です！

「見えざる手」



白鷗大学教授
山田 寛
(1回卒)

人生とはまことに面白いものです。

たとえば、私はいま大学で教員(会計学担当)をしていますが、どうしてなったのかを考えてみると、偶然的な要素が多いのに驚いています。

私は一九七二年(昭和四十七年)に佐野高校商業科に入学し、卒業後は地元で就職するつもりでいました。ところが、高校二年(一九七三年)の十月、第四次中東戦争をきっかけにオイルショックが世界を襲ったのです。そのため希望する就職先の採用がゼロになり、担任の渡辺泰男先生に相談すると、大学進学という選択肢もあることを知らされました。

翌年(一九七四年)、佐野商業高校に移ると進学クラス(四組)に所属し、担任の福納信輔先生をはじめ諸先生方の熱心な指導と助言をとおいで、無事進学することができました。

専修大学の櫻井通晴先生の講義を感激して受ける機会を得、門をくぐりました。学部卒業後は、青木茂男先生の指導を受けるため早稲田大学大学院に進学しました。そして博士課程在学中、白鷗大学(経営学部)が創設されることとなり、地元に戻ることもできました。われわれ個人の運命が、「見えざる手」によって動かされているというのが実感です。

高校時代の思い出、そして今…



藤村 浩之
(旧姓 内田)
(5回卒)

創立三十周年おめでとうございます。同校での三年間は、野球部員として、沢山の思い出と、先生方、人として基本的に大切な事を教えて頂きました。当時、鬼監督と呼ばれていた、齋藤庄作先生、そして先輩達の指導のもとで「甲子園」をめざし、そして私の小

さい頃からの夢だったプロ野球選手を目指し、毎日毎日、夜遅くまで必死の練習に励みました。甲斐あって、高校二年生の時に、県の首位打者となり、優秀選手に選ばれました。結果的にプロ野球選手にはなれませんでした。が、この三年間の中で、色々、得たものが、今の私に活かされています。

それは、常に「目標」を持ち、計画を立て、努力する事でした。努力といっても、自分だけの気持ちの努力ではなく、人に認めてもらえる努力です。それは行動する事でした。行動する事によって、良くも、悪くも必ず、次の目標が見えてきます。その目標に向かってこれでもか、これでもかとむしやうに行動するその考え方が根性を体で覚えしました。その頃は、いわゆる落ちこぼれといわれていた私でしたが、社会に出て、辛かった時は、必ずといってよいほど野球部時代の頃を思い出しました。すると気持ちが落ち着き、プラス思考の考えを持つようになり頑張れました。

今では、私も指導者という立場で会社を立ち上げ十七年ですが、色々な立場、方向から見ると、現在も社会人として通過点にすぎません。時代は変わっても、基本的な事は同じだと思っています。これからみなさんも、自分自身で、決めな自分とか、出来ない、無理と決めつけず、一つでもよいから、何事も目標を持って行動してみます。必ず何か見えてくるし、又やるべき事がみつかるはずですよ。そして自分に必ず出ると思う事です。人間一人では生きて行く事は出来ません。

私は、本当に高校三年間は、よい指導者に恵まれ、よい先輩、後輩、そしてよりよい友に恵まれた事を感謝しています。最後にありますが、同窓生の皆様方ならびに、佐野松陽高校のご活躍とご健康をお祈りいたします。

発行によせて

「高校生活を振り返って」



渡辺 秀廣
(10回卒)

佐野松陽高校同窓会会員の皆様、益々ご健勝にて各界でご活躍のこととお慶び申し上げます。また先生方、学校関係者の方々には日頃より同窓会の運営に關しまして多大なご協力を頂きまして厚く御礼申し上げます。

この度、佐野松陽高校も創立三十周年を迎え、記念として第二回目の同窓会報を発行できますことは誠に喜ばしく万感の思いで一杯です。

振り返れば第十回卒業生の私達にとって卒業してからすでに二十年の歳月が過ぎ去りました。今になって考えてみると高校時代の三年間で学んだこと、部活動を通じて身につけたこと、友人と遊び過ごした思い出の日々が自分自身の人間形成の源となり、人生の中で大変貴重な時代であったとの思いが強く感じられます。また実業高校ならではの実業高校でしか学べなかったことを経験できたことは社会生活に於いても大変役立つもので、佐野松陽高校(当時佐野商業高校)で学ぶことができたことを大変誇りに思っています。

高校時代、生徒会活動とは無縁であった私ですが、現在同窓会副会長という大役を任せられております。今後同窓会の発展に向け頑張っていきたいと思ひます。

母校より甲子園へ



新村 公男
(15回卒)

創立三十周年おめでとうございます。心からお喜び申し上げます。

私達十五期生も社会に出て、十六年目を迎えました。十五期生の皆様におかれましては、それぞれの分野で活躍のこととお慶び申し上げます。

佐野商業在籍時の世情は、バブル景気の高潮期で、日本全体が好景気の中にありました。高校時代を振り返りますと、担任の山田先生は教職に就いて初めての受持ちということもあり、就任時はいさぎよく緊張していたことを思い出されます。また、私は野球部に所属し、最高の仲間・先輩・後輩に恵まれ、甲子園を目指して日々汗を流しました。

三年の最後の大会では、石井投手(現・横浜ベイスターズ)率いる足利工業と延長十四回の熱戦の末、敗北はしましたが球史に残る名勝負と評されました。あれから十六年が経ちますが、野球部の同期生とは年に一度は顔をあわせ、交流を続けております。そんな中、野球部の先輩である川口さんが、現在佐野松陽の監督に就任し卒業時の夢を叶えていることは、後輩として誇りに思っています。指導者として、川口先輩が母校を甲子園出場に導いてくれる事を、OB一同期待しております。

最後に、同窓生の皆様方、並びに佐野松陽高校のご活躍とご健勝をご祈念申し上げます。お祝いの言葉と致します。



私の道



横地 康史
(20回卒)

平成六年に最後の佐商生として卒業し、もう十年が経ちました。卒業後、鍼灸・柔道整復師の専門学校に進学し、学校と接骨院勤務を半日づつこなし卒業後、二年間クリニックで勤務し一昨年の夏に佐野市内で念願の鍼灸接骨院を開院しました。無事三年目を迎えたが、地元の方々や高校時代の友人、先輩達のお影だと思っています。在学中は、流通経済科でクラス替えがない為、恩師の川田喜久先生や親友達に出会い、また部活でもサッカー部の先輩、同級生達といひ信頼関係をつくる事ができ、私にとって高校三年間は人間関係を築くうえでとても大切な時間だったと思います。



この職業に就いた頃は、毎日同じ内容の繰り返しで日々の成長が分からなく、せっかちな性格な為この道をこのまま歩んでいいものかと、不安な毎日でした。しかし三年・五年経ち自分の成長に気づき、継続が大切だと実感しました。開院し思った事は、患者さんからの感謝の一言で元気をもらい、それがやりがいにつながるという事です。高校で進路を決めるのは、難しく大変な事でしたが、自分が決めた進路を今も歩んでいる事を幸せに感じます。これから患者さんの笑顔を糧に頑張りたいと思います。

思い出の三年間



芹澤 尚哉
(25回卒)

佐野松陽高等学校三十周年おめでとうございます。佐野松陽高等学校を卒業してからもう六年の歳月が過ぎ去りました。

佐野商業高から佐野松陽高になり三年目に入学しました。私が佐野松陽高に入学したのは訳があります。身近な高校でしかもプロ野球の選手がいるのを知って私も佐野松陽に入部したかったからです。いざ野球部に入部したら毎日野球漬けで大変でしたが、先輩方から励まされて三年間野球が続けられたと今になっても思います。

私が二年生の時は部員が九人しかいなく、しかもその時キャプテンという大役までまかせられた時は本当に不安でした。どうして俺がキャプテンに選ばれたのかとずっと高校時代は思っていました。今となってはその時やっていた事で、本当にあの時やって良かったと思います。

三年最後の夏の大会前左手首を骨折した時は、この三年間何の為に練習してきたのかと思いましたが、川口監督が「ケガが完治しなくてもお前は試合に出す」と言われた時はとても嬉しく思いました。大会が始まり負けてベンチを出た時に私の三年間担任でもあった長田先生が私に「ケガにも負けずこのチームをよくまとめて頑張った」といわれた私の前で涙を流してくれた時は、本当に野球をして良かったと思ひの底から思いました。

私は三十年という学校の歴史の三年間佐野松陽高にいられてとても嬉しく思います。これからも佐野松陽高の卒業生として誇りを持ち頑張っていきたいと思ひます。

初関東大会出場



ワープロ部顧問
増山 泰美

ワープロ部の顧問になって十年近くになる私に、今年の夏信じられない嬉しい出来事がおきました。それは、近頃では県大会で入賞するものも珍しい我が部が、初めて関東大会の個人の部に出場したことです。その快挙を成し遂げたのは、一年生の時から部長を務めていた五箇敦弘君です。

彼は、入部以来毎日決まった時間になると必ず現れ、友人といっしょにこつこつと練習を重ねていました。その努力の甲斐あって、入部して二ヶ月しか経っていないにもかかわらず県大会に出場しました。その後も県大会には毎回出場しましたが、機械のトラブルなどもあり、なかなか思うような結果が出せませんでした。そして迎えた三年最後の全国大会予選で、遂に目標としていた字数を打つことができた。結果として関東大会にも出場しました。その影には、自ら目標に向かって、健闘を覚悟で練習するという涙ぐましい努力がありました。そのようにして迎えた関東大会、栃木県の個人の部三位として出場したにもかかわらず、本番ではその中で一番多くの字数を打つ事ができたのです。彼のひたむきに、神が味方して下さったのかも知れません。

また、彼らの学年が毎日地道に練習をしている姿が模範となり、徐々に練習に参加する生徒が増えるようになり、夏休みにも練習をするようになった事は、今後とも続けていきたいと思ひます。

最後に、やっと部活として本格的に活動し始めたワープロ部を一生懸命指導していきたいと思ひますので、同窓生の皆様も温かく見守って下さい。

同窓会だより

第二回同窓会

武井 一郎
(2回卒)

平成十六年八月十五日(日)、佐野市内のホテルマリアージュ仙水において、旧佐野商業高校第二回卒業生の第二回合同同窓会を開催しました。

当日は、佐野松陽高校の宇賀神校長先生、田中同窓会会長、そして卒業時の担任の先生であった松永先生、齋藤先生、影山先生、深田先生と全てのクラスの担任の先生にご臨席を頂き盛大に開催することができました。

同窓会は、水戸部幹事より開会の挨拶の後宇賀神校長先生、田中同窓会長、恩師の先生方から挨拶を頂き、乾杯となりました。

担任の先生方からは、在学当時の懐かしい話や、先生方の現況についての話をお聞きすることができ、約三十年の時間を超えて高校生に戻ったかのような、まるでこの会場が学校の教室で今授業中のような、何とも言い難い、非常に良い雰囲気の中で、久しぶりに会った同窓生とは昔話で盛りあがることができ、楽しい時間を過ごすことが出来ました。

昭和四十九年に佐野高校商業科から分離独立、佐野商業高校(現佐野松陽高校)が創立し本年で三十周年を迎えるその節目の年に、記念すべき同窓会を開催することが出来たことを、とても嬉しく思っています。



いた幹事の皆様方に御礼を申し上げ、また今回参加できなかった同窓生と、次回同窓会で再会できることを楽しみにしています。

学年同窓会について

津久井 靖夫
(7回卒)

平成十六年九月二十五日、佐野商業高校(現佐野松陽)第七回卒業生の第一回学年同窓会をマリアージュ仙水に於いて恩師の先生方と佐野松陽高校校長をお迎えして開催しました。

私たち第七回卒業生には二十四年目にして初めての学年同窓会。当時の私



たちは男子四クラス、女子二クラスの併学でした。在学中は女子クラスとの授業もあり無く交流もまばらでした。男女でクラスが違うので、お互い交流のない者同士もおり参加者の数など心配もありましたが、六十八名の参加がありました。定刻には参加者全員の出席をいただき記念写真も無事全員で撮る事が出来ました。

恩師の先生方には在学当時の懐かしい思い出話を交えたご挨拶を頂き、会場からは笑い声ももれました。約三時間余りの短い時間ではありましたが、二十数年振りの再会に仲間たちとの会話が途切れる事無く、時間の経過を忘れさせてくれる貴重なひとときとなりました。

最後に、今回の学年同窓会に協力してくれた幹事の皆様には心より感謝申し上げます。また、今回参加できなかった仲間にも再会できる事を楽しみに次回同窓会に向けてがんばっていきたいと思います。

ジャパンセブンズ

2003出場

ラグビー部顧問
石井 勝尉

平成十五年三月二十五日、二十六日、埼玉県熊谷ラグビー場において関東少人数制大会(七人制)が開催されました。これは関東一都七県から各専門部の推薦を受けた十六チームが参加する七人制の関東大会です。本校ラグビー部は栃木県ラグビー専門部の推薦を受け、この関東大会に出場する事ができました。総勢三百名余りが参加したこの大会は、二日間の中で四試合を行いました。

順位を決めるものでした。本校は、二位グループ(四チーム)中二位の成績をおさめ優勝はできなかったものの、ある程度満足のできるものでした。また、この大会は、ジャパンセブンズ2003(全国七人制大会)のセレクションマッチでもあり、二百名の中から一チーム十二名の関東代表チームを作り全国大会に出場するための予選でもありました。その関東代表十二名の中に、本校から亀山陽大(三年)森下達也(三年)島田修(三年)の三名が選ばれ全国大会

同窓会事務局より

同窓会員名簿は、卒業生皆様の情報提供により編集し、名簿発刊後は、会員相互間のより良い交流のための資料になる事が主たる使命と認識しております。

しかし、昨今のプライバシーの保護に関する状況は、この件と背中合わせになっており、皆様からのいろいろなご意見等もお聞きしております。卒業生データの管理につきましては、最近充分配慮しているところですが、最近

に出場する事が決定しました。

平成十五年四月十二日、十三日の二日間開催されたジャパンセブンズは、初日が江戸川陸上競技場、二日目は憧れの秩父宮ラグビー場で行われました。競技の成績は思わしいものではありませんでしたが、関東代表十二名中三名が本校の選手だった事、ラグビーマン憧れの秩父宮ラグビー場でプレーできた事など、本人にとっても、また松陽ラグビー部にとっても、とてもうれしくて自信につながりました。

秩父宮ラグビー場でプレーする事はできました。次の目標は『花園ラグビー場』です。



は、本校の同窓会事務局の名をかたり皆様の住所や連絡先等を聞く悪質な業者がいます。

現在、卒業生データの管理につきましては、(株)NTTビジネスアソシエ群馬」という会社の方に委託しておりますので、他業者からの問い合わせ等には、応じない様ご注意ください。

また、卒業生ご本人様の転居や変更等が生じた場合は、データの修正等もありますので、お手数ですが、同窓会事務局までご連絡いただきます様よろしく願います。

現在の佐野松陽高校

計算技術部顧問 小澤 一史

計算技術部は全国の工業関係の高校生のために設けられた計算技術競技大会を目指す部です。工業関係のあるように、本校では、工業科が併設された時より大会を目指すようになりました。しかし最初はその時臨時に集めた生徒で大会に出場していたようです。その後、同好会をへて、部活に昇格しました。

競技は、比例や順列、三角関数等の数学の問題を関数電卓を用いて解きます。種目は四則、関数Ⅰ・Ⅱ、実務Ⅰ・Ⅱの五種目で一種目当たり五分、三十点で、合計百五十点満点です。団体戦は、四名で一チームを組み、上位三名の成績の合計で競います。一名のみが成績が良くても優勝ができません。つまり二クラスしか工業科がない、絶対数の少ない学校から優勝チームを出すことはなかなか難しいこととなります。県大会は毎年十一月に、一校当たり二チームの参加で行われ、そこで優勝した一チームが、東京で行われる全国大会に栃木県代表として出場できます。

本校は、平成十年の栃木県大会に団体四位、平成十一年に団体二位、そして、平成十二年にそれまでずっと優勝していた宇都宮工業高校を破ってついに優勝し、その後五年連続で優勝し、個人でも五年連続で一位を確保しております。

本校の上位の生徒は関数Ⅰの内容ですと、一問当たり記入を終わるまで約十二秒弱の速さで、時には電卓の方が指より遅く待つことがあります。

平成十四年度までは、東京の浅草で全国の都道府県代表四十二校と昨年度の優勝校の計四十三校が集まり全国大会を行っていました。本校の記録は団体で平成十二・十三年度の十六位、個人では平成十三年度の百七十二人中三十二位が最も良い成績でした。



現在は全国大会は開催されなくなっていますが、県大会での優勝を目指し部員一同練習に励んでいます。

しかし、ただいま部員三名。部員の少なさと顧問の先生の異動というダブルパンチの中これを達成できたのは、先輩の皆様の応援を受け、部員一同頑張ることができたからです。先輩方には土曜日や夕方に何度も応用計算の解法やコツを指導いただいたり、御守を下さったり、そして予選大会当日にも応援にお越し下さり、表彰の際には共に喜びの涙を流して下さいました。部員一同全国大会に出場できてよかったという喜びとともに、先輩への感謝でいっぱい입니다。この伝統を消さぬよう頑張っていきたいと思ひます。

珠算部全国大会出場

『目指せ全国大会』

珠算部顧問 松島 礼恵

計算事務室の黒板の上には力強く毛筆で書かれたこの目標が掲げられています。そして後ろからも、先輩方の残した数々の上位入賞の結果の重みと、『目指せ！伊勢』八年連続全国出場をかけて頑張れば必ず栄光は君に輝く！という亀和田監督からの応援の言葉



学年同窓会開催に対する補助のお知らせ

栃木県立佐野松陽高等学校(旧佐野商業)も創立してからはや三十一周年目が経とうとしております。卒業生も七千五百八十七名を世に送り出し、それぞれの分野で活躍していることと思います。母校のことを懐かしく想い出している、その当時の先生はどうしているのか又は仲間の顔を「ふっ」と考えた

学年同窓会のお知らせ

第14回卒業生学年同窓会

日時 平成17年2月12日(土)
15時30分受付 16時開会
出席者集合写真撮影16時10分頃
3時開位を予定しております。
場所 ホテルマリアージュ仙水
佐野市奈良瀬町316
TEL 0283-24-4828
会費 7,000円(担任の先生等の花束・記念品等を含む)
連絡先(学年代表幹事)
飯田 一 090-3516-1336
永島 恵子 090-2496-1027
(旧姓 島田)

第19回卒業生学年同窓会

日時 平成17年1月3日(月)
14時30分受付 15時開会
場所 ホテルマリアージュ仙水
佐野市奈良瀬町316
TEL 0283-24-4828
会費 男性 8,000円 女性 6,000円
※当日、受付にて徴収いたします。
連絡先
幹事 前原 雄一 090-2750-2239
副幹事 柏瀬 優子 0283-24-9249(自宅)

編集後記

佐野松陽高校が三十周年を迎えるにあたり、前回の二十周年に引き続き、同窓会会報を発刊する運びとなりました。

三十周年記念事業として、『式典』が厳肅かつ華やかに挙行され、『記念講演』は、楽しいながらも熟思し大変有意義でした。また『学校公開』も多数の来校者に恵まれ、分離独立より教職員・PTA・同窓会、さらに地域の方々など多くの皆様に支え育まれた積み重ねの集大成と感謝申し上げます。校名・校章や校歌に登場する母校のシンボル「松」は、近年松くい虫の被害により減少傾向にあります。同窓会として援助を行い対策は講じておりますが、校庭に立つと抱えられないほどの太い松林の中に、切り株が点在し痛々しく誠に残念です。そこで、先日同窓会としてセンチュウ抵抗性松苗の申請を行いました。その松が根を張り、母校の年輪とともに、太くなることを心より願っております。

最後に、この同窓会会報の発刊にあたり、玉稿を賜った方々・編集にご協力いただいた関係各位に深くお礼を申し上げます。

また、この会報を読んでいただいた同窓会会員諸氏の、高校・青春時代を思い出す一助になれば幸いです。